

# 令和4年度ワークショップ予定 さまざまジャンルのプロから学び

地域おこし協力隊 野田 和樹

●問い合わせ先 生涯学習課生涯学習班(ウィーブル内) ☎(248)5555  
本年度も毎月、さまざまジャンル  
のワークショップを計画しています。  
皆さんの参加をお待ちしています。

## 4月 初めてのオンライン会議講座

ライブ配信オペレーター柿山俊春  
さんによる、現在オンライン会議で多  
く利用されているZoomの初心者向  
けワークショップです。

アカウントの設定やホスト(会議を  
開く側)の設定、カメラやマイクの注  
意点など、これからオンライン会議を  
始める人向けの内容になっています。

## 5月 季節のフォトウォーク

プロカメラマンの保田有希さんと一  
緒に、県農業公園カントリーパーク  
で、春のバラを背景にモデル撮影を行  
います。ロケ地での撮影方法やマナ  
ー、モデルとのコミュニケーションを  
学びます。屋外で人物をきれいに撮り  
たい人、撮影の設定方法を学びたい人  
など、カメラの撮影スキルを向上させ  
たい人におすすめです。

## 7月 星空撮影会

さいばーとれいん代表の斎場俊之さ

●問い合わせ先 生涯学習課生涯学習班(ウィーブル内) ☎(248)5555  
この他に、eスポーツ大会やアナウン  
サーから学ぶ話し方講座、オンライン  
朗読会、色鉛筆アーティストによる描  
き方ワークショップなど、たくさんの  
ワークショップを計画しています。1  
回きりではなく、より深く理解でき  
るように複数回開催するものもあります。  
生涯学習課所属の地域おこし協力隊  
員として、地域の皆さんが楽しく学べ  
るワークショップを開催していきます  
ので、本年度もどうぞよろしくお願  
いします。



▲ワークショップの詳細や申し込み方法、今後の予定は上記をご覧ください

# ウィーブル&コミュニティ情報

申し込み・問い合わせ先 **ウィーブル** ☎248-5555  
トレーニングルームは点検のため、4月30日(土)は休みとなります。

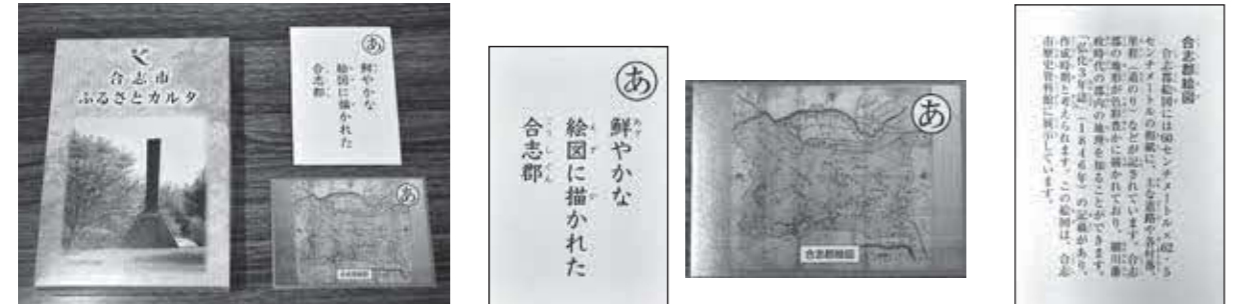
## 市歴史資料館 『合志市ふるさとカルタ』が完成

このたび、『合志市ふるさとカルタ』(下の写真)が、野口チカ子さん(須屋)の編集協力を得て、2年間かけてでき上がりました。

本市には文化財や史跡、紹介したい公園や山、祭などが数多くあるため、制作当初から絵札(写真)選びには苦労しました。また、五十音を頭文字にする五七調の読み札づくりにも、試行錯誤を重ねました。そして、小学生を含め多くの方々に使いやすいよう、カルタの読み札や解説文の漢字すべてに、ふりがなをつけました。

今後『合志市ふるさとカルタ』を活用し、その絵札を巡る、ふるさと探訪まちめぐりバス(下記参照)や子ども歴史・科学体験教室の実施を複数回予定しており、また、カルタ大会の開催なども検討しています。

多くの市民の皆さんが、市制15周年の節目に完成した、色彩も内容も豊かなこのカルタを通して、“ふるさと合志”の文化や歴史などに触れ、市の魅力を新たに発見し、再認識する機会となればと願っています。



▲合志市ふるさとカルタ ▲読み札と取り札 ▲解説

## 令和4年度 第1回ふるさと探訪まちめぐりバス 『合志市ふるさとカルタ』の札を巡る①

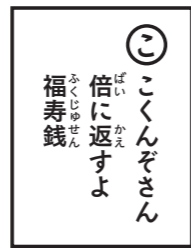
『合志市ふるさとカルタ』(令和4年2月制作)の中で取り上げている、市の文化財・名所・旧跡・公園などを巡ります。全3回で計画しており、今回はその初回です。皆さんの参加をお待ちしています。

- ▶と き 5月11日(水) 午前9時~午後3時20分  
※少雨決行です。雨天時は室内研修に切り替えます
- ▶申込方法 電話で申し込み
- ▶申込期限 4月27日(水) 午後5時

- ▶と ころ ①御代志市民センター玄関前  
(集合)午前9時  
(解散)午後3時40分
- ②ウィーブル受付前  
(集合)午前9時20分  
(解散)午後3時20分

- ▶内 容 市歴史資料館内・弘生菅原神社  
竹迫城跡公園・虚空蔵さん・永田支石墓  
竹迫日吉神社・開拓地(記念碑) 他

- ▶対 象 市内在住の人(30人程度)
- ▶参加費 1,000円(昼食・研修代)



こくんぞさん 虚空蔵さん  
かみのしょう こくぞうだに じゅう お とうくつ こくぞうぼさつ まつ  
上庄区虚空蔵谷(蛇ノ尾公園内)の洞窟に虚空蔵菩薩が祀られており、“こくんぞさん”の名称で親しまれています。毎年祭日である元日と1月13日には参拝者が訪れ、5円玉の福寿銭をもらい、翌年倍以上の金額を返すという風習があります。

# よみ人こころし

## 短歌 合志短歌・俳句の会

いつの間に重ねし歳あめの空の星の数ほどあったらいいな  
きらめける冬の世界を彩りし君の偉業は永久に忘れじ  
寝返りす曾孫の足はシュートする足の動きに似て飛び跳ねる  
初春の群の山脈光満ちその巖かさ両手合わせる  
行く末に施設を選びて友去りしともるはず無き窓の灯恋し  
初春もコロナ背負ひて迎へけり待ちわびたるや笑顔戻る日  
紅葉の絨毯の上寝そべりて真白き猫の夕焼けに染まる  
歳重ね老いの旅路の我が背中を支え下さる友有り難き  
五年振り娘の前に老いて行く姿を見せて心安らぐ  
さまざまえる弾ける笑顔全盲の八十四歳生きて尊し

## 俳句 合志短歌・俳句の会

茶道家の掃ききよめられ春の門  
凍てし閼流星浮かび落ち行けり  
縁側で二人仲良く日向ぼこ  
日向ぼこ楽しい歳になりました  
厚蒔きの間引き菜摘みし霜の朝  
枯庭の千両の実の赤さかな  
赤実垂る南天木や鳥群るる  
めでたさや白寿の友の笑顔かな  
孫連れてどんどやどんどや火にあたる  
コロナ禍にメールで来る初便り  
どんどやの子の笑い声弾ける炎

- 博智都都保保
- 明子子子子子
- 修修修修修
- 文文文文文